

市民の気づきを形へプロジェクト 公開学習会
行政と市民の協働を考えよう！
知って 伝えて シンポジウム

日時：平成19年8月24日（金）19：00～21：00

場所：今治市総合福祉センター（愛らんど）多目的ホール1

基調報告：山本優子氏・宇佐美浩子氏（プロジェクトメンバー）

コーディネーター：石井布紀子氏（有限会社コラボねっと代表取締役）

パネラー：前田眞氏（NPO 法人まちづくり支援えひめ）

大野浩和氏（愛媛県今治地方局建設部建設企画課）

山本優子氏・渡部雄一朗氏（プロジェクトメンバー）

参加者：75名（プロジェクトメンバー17名を含む）



自発的に集まった18名の市民が、2006年7月から、市民が行政施策の計画段階に関わることができるしくみである「審議会・委員会等」のよりよいあり方をさぐるプロジェクトを進めてきました。現状調査の結果、市民委員の意識や役割、会議の推進体制に関する課題が抽出されました。私たちは解決策の検討を進め、改善案として「提言書：審議会・委員会等への9つの提案」を作成しました。2007年7月からは、この提言内容を一つずつ実現していくために、新たに市民レベルの取り組みをスタートしました。

取り組みの指標である提言内容をじっくりと伝える機会を創りたいとのメンバーの強い思いから実現した本シンポジウム。提言内容や事例を紹介するに留まらず、たくさんの感想や提案をいただいたことが有意義でした。「審議会・委員会」がより開かれた場になり、立場の違うたくさんの市民の参加・参画に大きな魅力を感じます。本シンポジウムでは、そうした豊かな参加・参画を生み出すために配慮すべきこと、さらには実現した際に見える視野の広がりなどの具体的な効果が会場のやり取りの中で確認されました。プロジェクトの今後にかかっています。

- ①公募委員の枠を広げよう！
- ②日時、議事回数等は市民ニーズを基準にしよう！
- ③会を設置するときは、広く情報提供しよう！
- ④行政と市民が役割分担をしながら運営しよう！
- ⑤市民の意見の効力を高め、権利を最大限にいかそう！
- ⑥傍聴制度の確立、会議録の公開、パブリックコメント（意見公募）手を徹底しよう！
- ⑦会の成果を公開し、実際の取り組みにつなげよう！
- ⑧必要に応じて庁内各部署が連携しよう！
- ⑨公共を担うパートナーとして学び合おう！

冒頭にプロジェクトの趣旨、経緯、提言内容について報告が行なわれた。9つの提言内容を、一つ一つクイズ形式で会場になげかけ、理解を促した。「審議会・委員会に参加したい市民の割合は？」「パブリックコメント手続きはどのくらいの割合で行なわれている？」といった質問に、参加者は挙手で応答した。プロジェクトの中で行なった1200人の市民ア

ンケートの際感じたように、まだまだ市民の情報量が少ないことを実感した。

石井氏より「いつ・誰が・どこで・どのような」ことを決めたのかというような市民の疑問を、少しでも減らすことが、よりよいまちづくりにつながる」との思いから、行政が設置する「審議会・委員会」へより多くの市民の意見が取り入れられるカタチへ変えようとの取り組みであったとの総括があった。

I. 基調報告

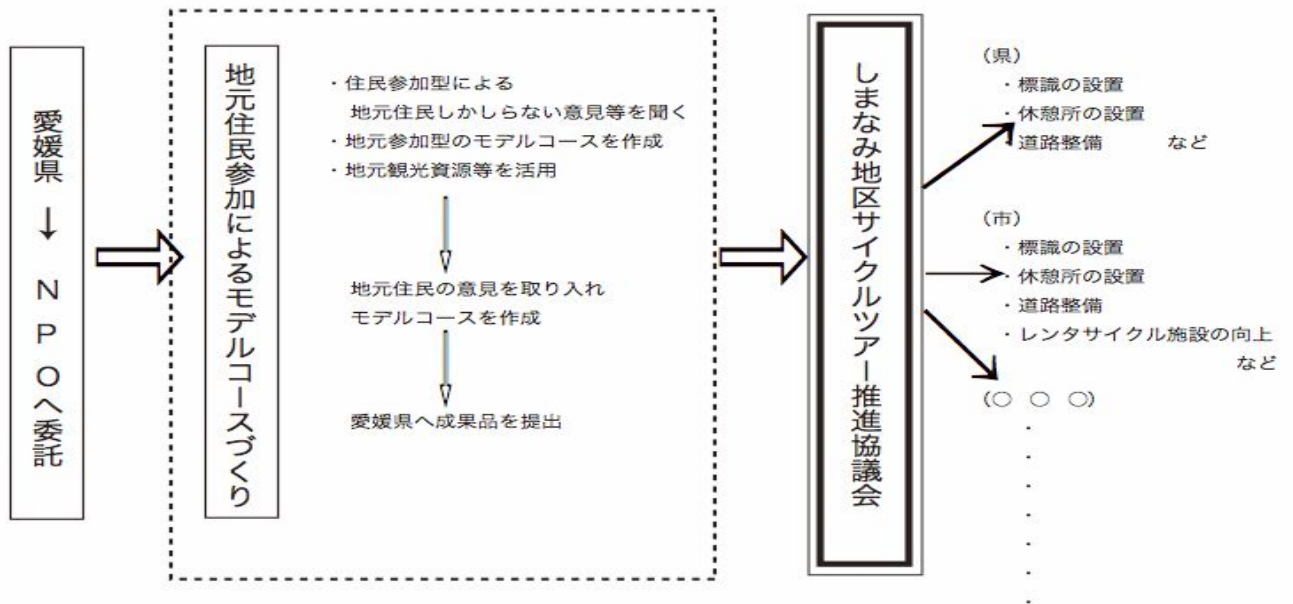
冒頭にプロジェクトの趣旨、経緯、提言内容について報告が行なわれた。9つの提言内容を、一つ一つクイズ形式で会場になげかけ、理解を促した。「審議会・委員会に参加したい市民の割合は？」「パブリックコメント手続きはどのくらいの割合で行なわれている？」といった質問に、参加者は挙手で応答した。プロジェクトの中で行なった1200人の市民ア



Ⅱ. パネルディスカッション

愛媛県今治地方局建設部建設企画課が設置している「しまなみ地区サイクルツアー推進協議会」の事例紹介、プロジェクトのこれまで・これからについてのディスカッションを進めた。事例を通して、市民の豊かな参加・参画が実現した時、そのプロセスや結果にどんな成果が生まれるのかを整理した。会場からはたくさんの質問や提案が出され、参加者全体で共有をした。次へつなげたい。

1. しまなみ地区サイクルツアー推進協議会の事例から



●提言⑧必要に応じて庁内各部局が連携しよう！

事例の中では▶▶しまなみ地域活性化のために、大規模自転車道をいかそうとする事業。道路管理者である愛媛県建設部のみで進めても、効果があがりにくい。国、市などとの連携をはじめ、産業振興などの幅広い部局間の連携を進めた。

●提言①公募委員の枠を広げよう！

事例の中では▶▶推進委員は、行政、公団、サイクリスト、地元商工会など、公募枠はないが、様々な市民が担っている。また、委員に新しい委員を推薦してもらうなど、最初に決定した委員を超えて、輪が広がってきた。実行段階では、サイクリングのことは分からないが、地域の情報をたくさん持っている住民の方が公募により参加した。

●提言②日時、議事回数等は市民ニーズを基準にしよう！

事例の中では▶▶会議スタート前に説明会を地域で行い、その際、みんなが参加しやすい日時の調整を行った。メンバーが決まる前に、地域の実情や参加して欲しい層を加味した調整が進められた。

●提言④行政と市民が役割分担をしながら運営しよう！

事例の中では▶▶▶計画、実行、評価を行政と市民が役割分担しながらすすめる手法として、実行部分をNPOへの委託という形で実施している。できあがった提案を市民参加の協議会へはかり、市民が評価するというしくみも機能している。住民の提案では視野が狭くなりがちな面を、協議会の専門家メンバーが差し戻す場面もあるなど、よりニーズに合致したものになっている。また、認識の違いを紐解く中で、ターゲットの捉え方を複数にし、効果的な提案内容に細分化できた実績もある。

●提言⑤市民の意見の効力を高め、権利を最大限にいかそう！

事例の中では▶▶▶通例ではコンサルティング会社に任せて、完成したものを住民に知らせることが通例。今までのやり方を変え、より効果的な成果を生み出したいと、実行段階を地元住民の参加型ワークショップ形式ですすめている。住民側には、形式的な取り組みに終始するのではという疑心があった。ワークショップで出された意見を、きちんと反映させていくステップの中で、住民との信頼関係を構築していった。

まちづくり中間支援組織の活用

住民の意見を引き出し、まとめる参加型まちづくりを応援するNPOが会議の介在。

●提言⑥傍聴制度の確立、会議録の公開、パブリックコメント（意見公募）手続を徹底しよう！

事例の中では▶▶▶会議録の作成はもちろん、毎回の会議の様子をニュースレターで地域に発信した。参加側ワークショップへ意見を届る中で、構成メンバーの主体者意識が高まっていき、成果がまとまった段階で、メンバー側から地域の意見を聞きたいという声があがってきた。

●提言⑨公共を担うパートナーとして学び合おう！

事例の中では▶▶▶一緒に事業を進める行政とNPOが学び合うことはもちろん、参加しているメンバーと地域活性化について深く検討できた。自治会、商工会、自主グループなど市民側も連携が必要だと強く感じた。結果、会議終了後も、新しい事業を立ち上げ、継続的な関わりがうまれている。

●提言⑦会の成果を公開し、実際の取り組みにつなげよう！

事例の中では▶▶▶連携している各参加部局や民間事業者が、提案に基づき、できることから着手する体制を構築している。

●課題として感じていること

- ・できるだけ幅広い市民の参加を願っているが、情報が行き渡ることはとても難しい。

(質疑応答)

●住民が作ったモデルコースへの協議会から「厳しい意見」とは？その意見の調整は？

1点目はモデルコースを活用するターゲットの認識の違いから生まれた意見だった。住民側は家族連れに活用してもらいたいと距離の短い平坦なコースを提案していたが、協議会の中ではプロサイクリスト向けのコース提案の要望があった。長距離のコースは別の枠組み（3つの島をつなぐモデルコース作成事業）で応じることとした。2点目は、休憩所設置箇所について、現実的な活用ポイントを踏まえて、協議会が適切な場所を逆提案した。住民に説明し、賛同を得た。実際に走向経験のあるサイクリストだからこそ見えるニーズが明らかになった結果だと思う。どちらもワークショップ運営者のNPOが地元住民メンバーに説明し、了承を得た。

●モデルコースづくりに関わる住民の選定は？

会議開始前の説明会、自治会、社会福祉協議会、商工会などの地元有力団体への参加依頼を行なった。説明会終了後の参加については、全て公募形式である。

●時間的にも予算的にもゆとりがあった会だったように思う。それがうまくいった要因では？

時間は使い方だと思う。資金は充分とは言えない。メンバーの提案による追加の事業もあり、赤字対応となった面もあった。

●休憩所の維持管理はだれ？今までの流れだと、荒れてしまい宝の持ち腐れにはならないか？

ワークショップの中で、休憩所の維持管理を地元で担う議論は行った。自宅近くの休憩所は自治会で管理できるとの話だったが、自宅から離れた休憩所は行政に管理して欲しいとの依頼があがった。設置された休憩所は、現地の景観にあうよう木材を活用した。トイレなど、管理に手がかかるものはおらず、いつまでも気持ちよく使ってもらえるよう配慮した形で建設した。

●モデルコースづくりにおける行政の役割は？

行政が事業の案を決める立場ではない。市民と同じ目線に立って、一緒に考えていきたいと思い、市民と同じ立場でグループディスカッションに加わっている。

●NPO側の行政との関わりでの苦労は？

初めは両者の成果物の重点配分について、ギャップを感じたこともあった。ただ、共通の目的があったので、話し合いを重ねることで乗り越えられた。情報交換は必要で、それは苦労ではないし、苦労だと感じたこともない。

●事業の進行具合と今後については？モデルコースは今、地元の住民に使われているの？

提案の実現に向け、連携先が一丸となって動き始めている。今のところ、モデルコースは活用されていない。これから情報発信をし、活用を促していく。

事例を通して見えてきた市民参加・参画の会議のポイント

前提条件：目的意識の共有→限られた時間で深い議論ができる要素

- ①自由に聴きあう
- ②同じ目線で話し合う
- ③進めやすさ、コストパフォーマンスを意識する（行政の役割）
- ④対象別にニーズを分析する
- ⑤優先順位を決める（NPOが調整役）



(会場からの感想、意見・提案)

- ・様々な意見を取り込んでいて素晴らしいと思う。これからがまちづくりになると思う。
- ・この会は全く知らなかった。一人でも多くの人に参加したらいいと思う。エフエムラヂオ BARIBARI で自転車をテーマにした番組(毎週火曜日 13:30~)がある。毎回、自転車大好き人間をゲストにして、30分間話す。しまなみ海道は全国の自転車愛好家から聖地として注目されており、たくさんの人が走ってみたいと言っているそうだ。このような自転車大好き人間の声も聞いてみてはどうか。
- ・サイクリングは鉛線の景観を楽しむことになると思う。瀬戸内海の多島美は、遠くから見るときれいだが、近くから見ると、電線が多すぎて醜い。コンクリート、電柱のオンパレードは無機質で、風情も情緒もない。せめてアメリカのように、昔の日本の風景にあったように木の電柱にすべき。将来的には欧米のように電線の地中化を進められる国にしなければならないと思う。
- ・青年会議所活動を主にしているが、NPOの実行力、自由な考え、発想がうらやましく思った。出張で今治へ来られた人が、写真を撮りたいと糸山公園を探していたが、分からなかったと言っていた。きれいな風景を撮りたいと思っている人には絶景ポイントなのだと思う。市内のけやき並木なども「すごい」と言っていた。サイクリングコースにつながると思う。

2. 市民参加・参画の会議の進め方のヒント

●新メンバーと旧メンバーの情報量の違いへの対応(時間制約面も配慮して)

(会場からの質問)

- ・時間的な制約があることの利点、欠点、時間内にまとめるためのポイントは?
- ・市民の意見を聞くときに新しい人も随時参加していただいていたと言っていたが、話が前に戻ってしまうことはなかったのか? そうならないために工夫していることは?
- ・いわゆる重鎮の意見や考え方というのは時にやっかいなものになる場合があるように思う。このような人たちをどう扱ったらいいのか?

↓↓↓↓↓ パネラーからの返答 ↓↓↓↓↓

- ・積み上げられてきた議論は初回の会合で説明する。
→ファシリテーター(進行役)の仕事(提言④)
*誰が担うのが重要なポイント。関係者で担うことができない場合は、外部に依頼しては。
- ・新しいメンバーは自らが積極的に情報を得ていく。
→会議の中で納得ができないことがあれば、会議以外の場でのコミュニケーションで補完。
*情報の格差をなくす機会と議決の機会を分ける
*分科会を設ける
- ・会議録は複数作成し、日常的に情報共有を進める。
→いつでも、だれでも気軽に参加・参画できるしくみ
*議事録とは別に、市民の読みやすさを工夫したニュースレターをタイムリーに発行する

(会場からの感想、意見・提案)

- ・まちづくりを協働で行う場合、どうしてもスタッフは市役所内の課が決まっていると思う。市役所内での意識向上のために、全ての課の職員が積極的に参加すべきだと思う。

●市民の主体的な参加・参画の促し方

(会場からの質問)

- ・丸亀市では審議会等の委員の公募に関する条例で、2つ以上の審議会等の委員になれないとなっている。提案①の「公募の枠を広げる」ことは最も基本的なことと考えるが、公募してみようという市民の絶対数がすくない場合、今治市の実践の「共に学ぶ」機会を増やすことが大切だと思う。行動に移すにあたり、行政からの投げかけは必要か？市民側から立ち上がってくることを期待する方が適切か？
- ・旧町村部においては、地域の人々とのつながりも強く、物事を進める上でやりやすいと思う。旧市内の中心部においては、市民の協力、積極性などはどうなのか。どうしたら市民の自主性や協調性を高めることができるのか？

↓↓↓↓↓パネラーからの返答↓↓↓↓↓

- ・行政の立場としては、市民の参加を促すことが基本的な仕事。一般の人に「参加したい」という意思をもっていただくための努力をしたい。
- ・様々な切り口の参加の場がある。関心のあるところを見つけ、気軽に参加してみる。自分の得意な分野、身近な分野なら関わりやすい。
例) サイクリングを通したまちづくりなら、サイクリングに関心がある人が参加できる。合併後、生活圏域が広がったことで、山間部や島嶼部の事業にも関心を持ち始めた。
- ・地域の間支援組織がコミュニケーションのきっかけづくりをする。

(会場からの感想、意見・提案)

- ・審議会、委員会にたくさんの市民が関心を持つためのきっかけづくりが大切だと感じた。
- ・審議会、委員会において、住民の意見を聞き、公益的に成果品をまとめていく。市民の誰もが賛同できるものでなければならないと思う。
- ・9つの提案、とても時間をかけて作っているなあと感心した。
- ・今回、この提案書を、私たちに作って見せてくださった異味が何だったのか、分かりづらかった。でもこの冊子を全て読んだ訳じゃないので、家に帰ってじっくり読みたい。
- ・市民の意見等を行政にあげていくことにより、少しでも形に残っていくようになってほしいと思った。
- ・公共工事でもできるだけ安いものを使用しているのが現状で、市民のことをあまり考えていないような場面が多いと思う。
- ・一方的に行政に任せるのではなく、市民が求めているものをまず知って、納得できるものをつくってほしい。
- ・審議会、委員会を立ち上げる前に、市民の中に技術的、能力的に優れている団体の公募をするべきだと思う。課題に専門的に答えることができる人をメンバーに入れるべきだと思う。
- ・市民参加型の様なスポーツクラブを立ち上げて欲しい。指導者の方はお金を費やしているので、行政がバックアップをして、スポーツを通じた交流と心と体の健康維持ができるようにしてほしい。
- ・提案を受けた市側の反応は？市側も「市民参加の意義」についてしっかり受け止め、体制を検討してほしい。



質問、具体的な提案を記入する参加者

●幅広い情報提供の手法

(会場からの質問)

- ・数は少ないにしても、今現在、審議会・委員会は市民公募をしていることが分かった。提案③「会を設置する時は広く情報提供をしよう！」とある。今現在、どのように告知しているのか？ 今後はどのように変わっていきそうか？
- ・広報などは関心のある人しか目を通さない。費用の問題もあるが、TV、新聞折込チラシなどを活用できないか？
- ・WEBでの情報交換はできますか？

↓↓↓↓↓ パネラーからの返答 ↓↓↓↓↓

- ・今治市は8割の人が広報から情報を得ている。広報を読まない人もいることを考えると、今後、HPの充実や新聞など民間メディアの活用は見当すべきだと思う。
 - *新居浜市のHPは、審議会、委員会の情報にアクセスがしやすい。
 - *松山市は「坂の上の雲まちづくり事業」を進める中で、観光客への情報提供ツールとして、まちにモニター（タウンボード）を設置している。これから260箇所を設置する予定。タウンボードを通して、行政事業についての告知もできる。活用が考えられる。
- 今治市らしい情報提供のあり方を検討すべき！

●プロジェクトの今後

(会場からの質問)

- ・大変よい活動だと思う。今後のプロジェクトメンバーの増員、構成変更などあるのか？
- ・今後、近々の活動予定は？

↓↓↓↓↓ パネラーからの返答 ↓↓↓↓↓

- ・6月中、今年度のプロジェクトチームメンバーを募集し、新たな取り組みをスタートしている。既に動き始めているプロジェクトであるが、随時メンバーを増やすことにするかどうか、メンバーと話し合っ決めてたい。
 - ・行政の枠組みの中で、審議会・委員会に参加するとなると、時間も参加できる人数も限られてくる。その枠組みを超えた、気づきの共有、提案を行なうためのプロジェクトだと思っている。学びを深めるために、行政の設置する会議の前に、事前学習会を行ない、より多くの市民への周知、市民の参加を促していきたい。

(会場からの感想、意見・提案)

- ・プロジェクトのメンバーが審議会の委員に公募したという話は素敵でした。
- ・まちづくりに参画している団体の一人だが、まちづくり事業を企画する時、どうしても内々で進めていく場合が多い。9つの提言、非常に参考になる。日常的な提案については取り組んでいく必要を感じている。素晴らしい提言だと思うので、関係諸団体に広く知らせていただき、よい今治のまちづくりにつながると思う。
- ・今治市のよいところ、将来の今治市のあるべき姿を、市民ニーズや成功している事例等も参考にしながら発想の転換をすることが大事だと思う。



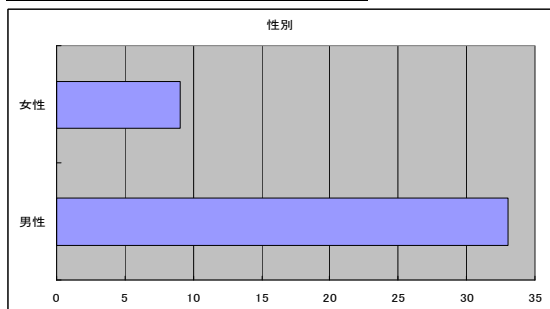
Ⅲ アンケート結果

42人/75人中

1. 参加者プロフィール

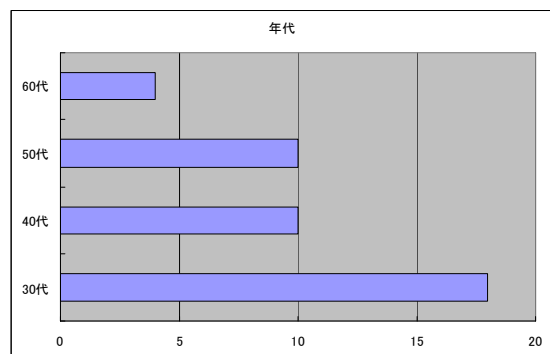
①性別

男性	33名
女性	9名
合計	42名



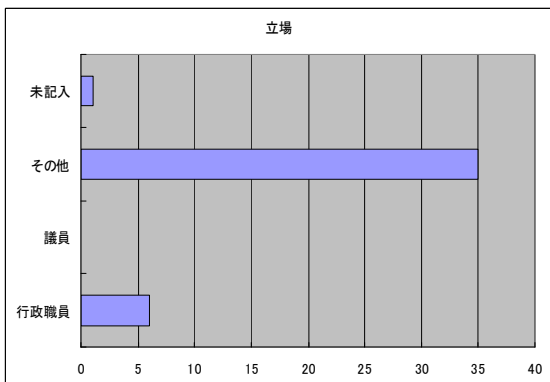
②年代

30代	18名
40代	10名
50代	10名
60代	4名
合計	42名



③立場

行政職員	6名
議員	0名
その他	35名
未記入	1名
合計	42名

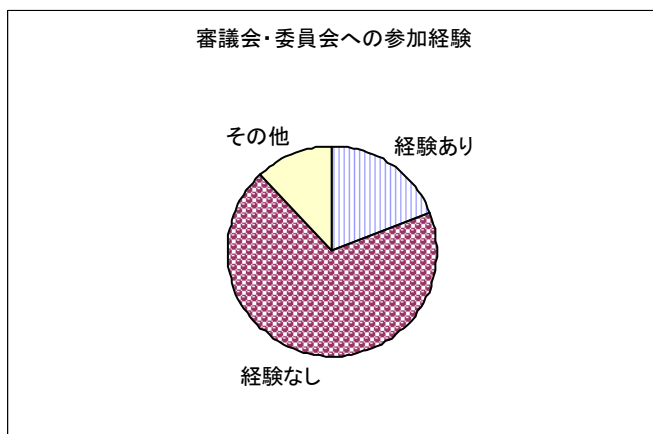


④審議会・委員会への参加経験

経験あり	8名
経験なし	29名
その他	5名
合計	42名

(その他)

・事務局として(行政職員の方4名)

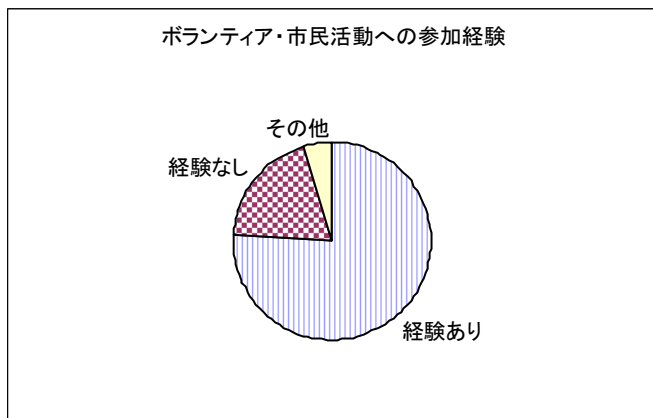


⑤ボランティア・市民活動への参加経験

経験あり	32名
経験なし	8名
その他	2名
合計	42名

(その他)

・ここ数年参加できていない(1名)



2. 本シンポジウムについて

①基調報告

●評価点 平均点 3.0点

分かりやすかった ▶▶▶▶ 分かりにくかった					
4	3	2	1	未記入	合計
8名	28名	4名	1名	1名	42名

(よかった点)

- ・ゆっくり穏やかな進行で良かった。
- ・アンケートの結果を数値で説明するなど説得力があった。
- ・説明が上手でスムーズでした。
- ・小冊子を提供してくれているので、後日読み返したい。
- ・このような提案をしていくべきであると思う。
- ・行政と市民の間にNPO法人が必要だと思った。
- ・コーディネーターの進行が秀逸であった。
- ・提言書が大変わかりやすくまとまっていた。

(3)

- ・冊子に箇条書きの文言や表が多用されており、分かりやすかった。
- ・パワーポイントで理解しやすかった。
- ・プロジェクターでうまく簡潔に表現してくれたと思う。(2)
- ・思いが伝わった。

- ・自分の思いがこもっていて分かりやすく伝わった。
- ・細かく書かれてあった。
- ・時間内にわかりやすくまとめられて内容がよく伝わった。

(悪かった点・改善点)

- ・調査した審議会のテーマを知りたい。
- ・もう少し一つ一つの提案の中身の説明、提案作成者の思いを聞きたかった。
- ・初めての参加で最初は理解しにくかった。
- ・解っている人の目先の話であったように思う。
- ・少々内容を詰め込みすぎたのではないか。
- ・もう少し自分が勉強してから参加すれば分かりやすかったと思う。
- ・当日のプログラムがあればとよかった。
- ・事前に提言書を読みたかった。
- ・質問の深い意味がよくわからなかった。

②パネルディスカッション

●評価点 平均点 3.2点

興味を持てた ▶▶▶▶ 興味を持てなかった					
4	3	2	1	未記入	合計
14名	24名	4名	0名	0名	42名

(よかった点)

- ・分かりやすい事例だった。協働のプロセスがよくわかった。
- ・分かりやすい事例をもちいているので話を理解しやすかった。
- ・サイクリングの事例を取り上げての展開が良かった。(4)
- ・事例のことを正直知らなかった。観光と健康なサイクリングコース構想は地道なようだけいいのでは。

- ・行政とNPOと両方の意見が生で聞けたことが良かった。(2)
- ・県職員の方が丁寧に説明してくれ、行政との距離が縮まったようだ。
- ・パネラー一人一人の説明が上手で分かりやすかった。(2)
- ・パネラーはよく勉強していた。
- ・さすがのコーディネートだった。進行が非常に上手。(2)

- ・行政、市民、各団体がネットワークを広げ、心地よいまちになればと思う。
- ・市民と行政がお互いに謙虚な気持ちで学びあうという意識が大事だと改めて思った。今、一番、青年会議所に足りないところだと思う。今後こういう事に積極的に参加したい。
- ・市民が市町を知り、好きになればよりよいまちづくりが出来ると思う。
- ・市民と行政が日常から関わりを持ち、広がりのある協働のまちづくりが不可欠だと思う。
- ・いろいろな方面で活躍している市民の意見も聞いてみたい。
- ・自分から声を出せる人だけでなく、声を出せない人の思いをどうくみあげていくかということも、考えていく必要があるのではないかと思う。

- ・小・中・高校で市民行事への企画段階からの参加等、祭り以外でも参加するようになれば意識があがると思う。今の20～30代位の親世代は言うだけで動かない人が多いので、子供が参加すれば親も出ると思う。
- ・新しいものをつくる前に、古い良いものを出していくのも良いですね。
- ・また次の機会にも参加して学んでいきたい。
- ・今治市らしい人の集まる観光施設を作ってほしい。

市民の市政参加促進を

今治で「協働」シンポジウム

今治市が設置している審議会や委員会の望ましい在り方を市民に考えてもらうと、特定非営利活動法人（NPO法人）今治NPOサポートセンター（越智紀方理事長）の「行政と市民の協働を考えよう」を知って伝えてシンポジウム」が二十四日、同市南宝来町一丁目の市総合福祉センターであった。

同センターが行政や市民の実態を尋ねたアンケートを対象に審議会・委員 ート結果をまとめ、七月



審議会・委員会の在り方検証

に市に提出した提言書「審議会・委員会への九つの提案」を検証することが狙い。市民や行政職員ら約六十人が参加した。

同センターのメンバーが調査経緯や、「公募委員の枠を広げてほしい」といった提言書の内容を説明。行政とNPO団体が連携してまちづくりに取り組んでいる事例として、国土交通省の「しまなみ地区サイクルツアー推進事業」を紹介した。市民からは「行政には市民の意見を一番に考えてほしい」「審議会の開催など知らないことが多いので幅広い情報提供が必要」など、さまざまな意見が出た。越智理事長は「提言書について多くの人に知ってもらい、内容を見直すことで、積極的に行政に参加する市民が増えていけば」と話している。

今治市に提出した提言書について見直したシンポジウム